

心に残るエピソード

私が看護師として医療療養病棟に復帰した当初は、急性期とは異なる雰囲気の中、高齢の患者様とのレクリエーションや日々のケアを通じて穏やかな時間を過ごしていました。しかし、医療区分の導入以降、病棟には寝たきりや経口摂取が困難な方が増え、状況は大きく変化しました。

そのような中でも、「一口でいいから食べたい」と訴える患者様や、経口摂取を望まれるご家族の声に応えるべく、看護師間で試行錯誤を重ねました。専門職の配置がない中、口腔ケアの頻度を増やし、ジュースを染み込ませた綿棒を凍らせて口腔マッサージを行うなど、できる限りの支援を行いました。

ある日、長らく中心静脈栄養で過ごされていた患者様が、小さなお饅頭を一口召し上がり、「美味しい」と笑顔を見せてくださいました。その表情は今も鮮明に心に残っており、看護の原点を改めて実感した瞬間でした。後日、その方は静かに旅立たれましたが、あの笑顔は今も私の看護観を支える大切な記憶となっています。

幹事 高橋 久美



起き上がりこぼし(勇気がでた出来事)

起き上がり小法師(おきあがりこぼし)は会津を代表する縁起物で、転んでもすぐに立ち上がるところから、粘り強さと健康のシンボルとして縁起がいいとされています。毎年初市で家族の人数より1個多く買う習わしがあり、会津の家庭には欠かせない縁起物になっています。

看護師18年目に突入する年に、当時の所属師長より主任昇格を伝えられました。しばらく呆然と受け入れることができないまま日がたち、不安を抱えていた私に、看護師長がかけてくれた言葉があります。「現場を自由に変られるのは主任時代だったね。師長になるとなかなかできないのよ。好きなようにやってみな。」その一言に胸の重さがふっと軽くなりました。主任看護師としての役割に迷いがありましたが、自分らしさをそのまま活かせば良いのだと気づかされました。看護師長の温かいアドバイスは、挑戦を後押ししてくれる大きな勇気となり、昇格を前向きに受け止めるきっかけになりました。現在は看護師長となり、部署の主任看護師と3人で協力しながら楽しく看護をしています。

日光支部支部長 手塚めぐみ